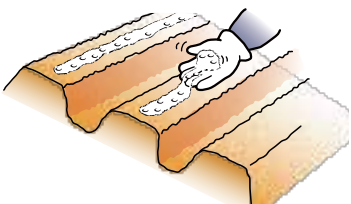









ダイアジロン[®] 粒剤5 の上手な使い方

	タネバエ	ネキリムシ類
生 態	●寒冷地では3~4回、暖地では5~6回発生します。成虫は鶏糞、堆肥などの腐敗臭に集まってくるので、有機質肥料を使ったところでは注意が必要です。	●ネキリムシはカブラヤガ、タマナヤガ等の幼虫の総称です。カブラヤガは年に3~4回、タマナヤガは年4~5回発生し、夜間に植物の地際部に1個ずつ産卵します。
被 害	●幼虫は土中に潜り、発芽前の種の内部や発芽直後の茎を食害します。えだまめ・だいず・だいこん・きゅうり等で被害が大きくなります。	●作物の茎が地際部分で食害されて折れてしまう被害や、発芽直後の苗が一晩に数十本も食害される被害が出ます。
散布方法	●種の周辺に幼虫が生息するため、薬剤が種の周辺に集中するよう、播種時にうね土に作条に散布します。  <p>注) 初期(播種時)の被害は十分に抑えますが、後期(収穫時)の被害には生育期処理の体系防除が必要となる場合があります。</p>	●畑の周囲から幼虫が侵入する場合がありますので、幼虫に薬剤をより接触させるよう、播種時、植付時または定植時に散布します。 
混和方法	●幼虫は地際部に寄生しているため、できるだけ浅く混和します。 ●キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、レタス、はくさい、えだまめ、だいず、ほうれんそう、かぶ、だいこん、はつかだいこん、とうもろこし(子実、未成熟)、こまつな、みずな、もりあざみ、オクラ、モロヘイヤ、たらのきなどの土壌表面散布の登録がある作物では混和しなくても使用できます。	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>浅く混和</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>深く混和</p>  </div> </div>
その他の防除ポイント	●魚粕・だいず粕・鶏糞等の有機質肥料は、分解時に生じる発酵臭が成虫を誘引するため、多用をさけます。 ●堆肥の施用や前作物のすきこみは、播種時までにはできるだけ分解を促進させます。	●誘蛾灯や糖蜜等で成虫を捕殺します。 ●畑の見回り等で早期発見を心がけます。 ●産卵場所や生育地となる雑草の早期除草で、発生密度の低下をはかります。

コガネムシ類幼虫防除	だいず子実害虫防除	ケラ防除	キスジノミハムシ防除
<ul style="list-style-type: none"> ●野菜類：播種や定植の時に散布し、混和してください。 ●いちご：植付前の仮植床又は定植時の本圃に全面散布して混和してください。 ●かんしょ：夏、成虫が飛来する時期に10日間隔で2~3回作条処理し、軽く覆土してください。 ●作物の生育期に幼虫防除をする場合は、作条処理し軽く覆土してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●8月中旬~9月中旬に害虫の発生に合わせて1週間~10日間隔で2~3回処理します。 ●畑全面に散布してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●播種・定植時に全面または作条に散布し、混和してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●幼虫の根部への加害防止を重点に予防的防除をこころがけます。 ●播種時作条に散布して、軽く土壌と混和してください。 ●さらに、生育期に株元に散布、土壌混和します。 

保管・・・直射日光をさけ、**食品と区別し**、冷涼・乾燥した所に密封して保管してください。
空袋は圃場等に放置せず、適切に処理してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

この印刷物は平成29年1月現在の登録内容に準拠して作成しました。